

京都人類学研究会

文化人類学講座 20周年記念講演会 第5回 (最終回)

アニマと〈あいだ〉の人類学

講演プログラム

芸術と生の人類学へ

—障害のある人たちの創作活動から

中谷和人 (日本学術振興会)

脱制度化の源としての〈触発＝情動〉の連鎖の場

—精神医療における「魂に対する態度」がもたらすもの

松嶋健 (京都大学人文科学研究所)

パッションの共同体へ

—南インドにおける神霊憑依、開発、身体

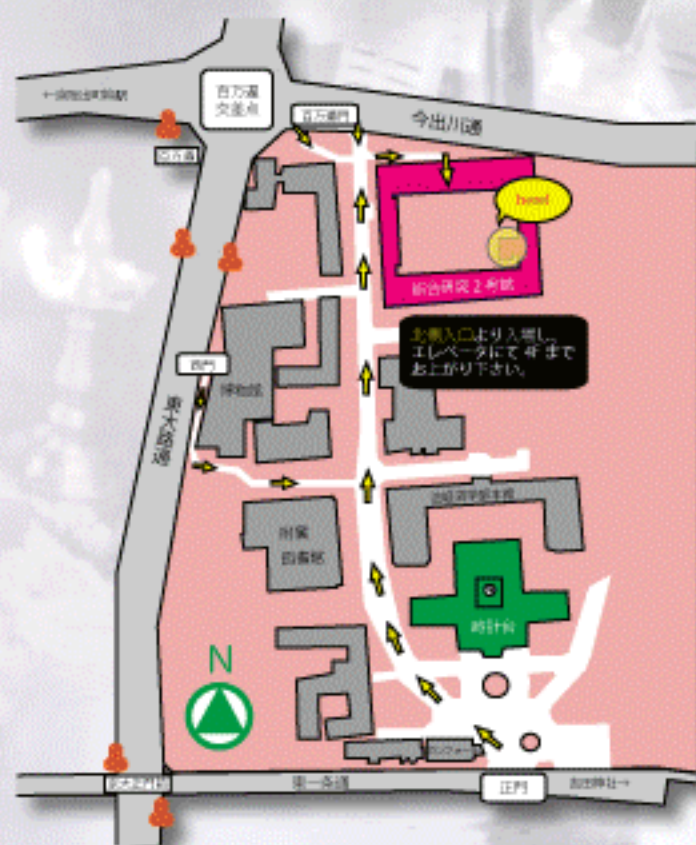
石井美保 (京都大学人文科学研究所)

コメンテーター：野村雅一 (国立民族学博物館)

このミニシンポジウムでは、anima (魂、生命) と〈あいだ〉という言葉の鍵として、芸術的創作と精神医療、神霊憑依をめぐる人びとの営みを検討する。それぞれの発表に共通するのは、人びとが「生きている身体」として他者や環境と取り結ぶ動的な関係性への感受性であり、いわば〈あいだ〉の位相への関心である。主体と客体という二項関係、あるいは主体と主体の対峙という構図から離れ、生きている身体と身体、動き変化する身体と環境、そして生物としての人と非生物としてのモノの〈あいだ〉に目を転じたとき、どのような新たな人類学的展望が開かれるのか。このシンポジウムは、生と魂 (アニマ) への人類学的接近に向けた実験的な試みの端緒である。

7月19日 (金)

13:30 開演 (13:00 開場)



京都大学
総合研究2号館
4階会議室 (AA447)

*どなたでもご自由にご参加いただけます。事前の参加予約は必要ありません。
*当日は資料代として200円いただきます。
お問い合わせ: kyojinken2013@yahoo.co.jp (京都人類学研究会事務局)